

安河内哲也著「本当に役立つ勉強法と教材」週刊東洋経済 2010年9月18日刊を読む

1. 聴く - 発音できないと聞こえない、読めないものは聞こえない -

(1)リスニングの 2 大憲章は「発音できないものは聞こえない」「読めないものは聞こえない」です。

私は大学時代、「耳がおかしいのではないか」と思うくらいリスニングができませんでした。毎日朝から晩まで英語の授業やラジオを聴いても、何も変わりませんでした。つまり、ただ聴いているだけでは永遠に聞こえてこないのです。洋楽を 30 年間聴いているのに、歌詞がさっぱりわからないという人も多くいます。英語を聴いた時間数とリスニング力は必ずしも比例しないのです。

(2)リスニングができるようになったきっかけは、発音矯正です。発音記号どおりに英語を発音できるよう、人工的に発音を直していくわけです。そのための有効な手法が、ディクテーションです。まず聴いた英語を書き取ってみます。そして、書き取れなかった部分の単語の発音を確認して、自分で発音してみる。すると耳が直ってきます。発音できる音は完璧に聞こえるようになります。発音の正確さとリスニング能力は比例するのです。

(3)知らない単語は聴き取れません。読解とリスニングを分けて考える人は多いですが、半分は同じです。リスニングの半分は読解なのです。読んでわからないものは、聴いてもわかりませんので、まずリスニングで聴くレベルのものは、読めるようにならないといけません。

(4)今まで説明した手法を「精聴」といいます。初心者はこれから始めるべきです。上級者になると、「多聴」の割合を増やしていくのがいいでしょう。ポッドキャスト、DVD、映画など教材は数多くあります。

2 . 書く & 単語 - スパイラル方式で英単語を覚えよ -

- とにかく例文を暗唱して、とにかく英文を書きまくる

(1) 単語を覚えるときに、忘れがちなのが発音です。日本人は目で単語を見て、意味を言えば知っていると思いがちです。でも、意味がわかる単語でも、発音を間違っ覚えていてるものが多くあります。発音記号を見ながら読む習慣をつけて、単語の発音を直していきましょう。

(2) お薦めの勉強法はスパイラル方式です。

最初は、読書として例文を読んで楽しむだけで、覚えようとしなない。

2 回目は、単語と意味を声に出して言うてみる。

3 回目でやっと知っている単語と知らない単語を確認する。

4 回目で一つ目の意味だけを覚える。

5 回目で二つ目の意味も覚える。

6 回目で例文を読む。

7 回目で細かい部分を読む。

(3) こうして 10 回、20 回と繰り返しながら最終的に細かいところまで覚えていく。何度もぐるぐる回すことで、単語が記憶に定着しやすくなるのです。

[コメント]

やるか、やらないかで学力が決まるが、その方法が大事。大河内先生のこの方法は極めて正しい。正攻法と言える。

- 2010 年 9 月 21 日 林 明夫記 -